

仙台地域知的クラスター創成事業 先進予防型健康社会創成クラスター について

仙台市

1. 地域の課題

① 高齢者の数が大きく増加

- － 高齢者数の増加率(13年→17年) 全国:12% 仙台市:16%

② 高齢者一人暮らし、高齢者のみの世帯の数が大きく増加

- － 高齢者一人暮らし世帯数の増加率(12年→17年)
全国:34%増 仙台市:37%増

③ 医療費が大きく増加

- － 国民医療費推計(13年度→16年度) 全国:3%増
- － 療養費等(13年度→16年度) 仙台市:22%増

④ 介護費用が大きく増加

- － 介護保険給付費(13年度→17年度) 全国:41%増
仙台市:46%増

⑤ 医療施設の点在化(100km²当たりの医療施設数)

- － 岩手が0.67箇所(全国最低)、秋田・・・0.68箇所
青森・山形・福島・・・1.00～1.20箇所(全国平均の半分程度)
政令市を有する宮城県でも2.14箇所(全国平均以下)

2. 大学との連携によるこれまでの取り組み例

鶴ヶ谷プロジェクト

介護予防サービスのあり
方の研究(平成14年度～)

- 鶴ヶ谷地区の70歳以上対象
(半数約1000名参加)
- 寝たきり予防検診の実施
- 予防検診に基づく介入指導
- 事業効果の測定

鶴ヶ谷団地

昭和41年より開発が始まった団地
高齢化率は、本市平均の倍の約30%

実施項目

- ・虚弱高齢者への
運動訓練
- ・うつ高齢者への
地域ケア
- ・脳ウェルネス・
プロジェクト
- ・口腔ケアの指導

一定の
効果

一七年度より一部展開

3. 仙台市の健康福祉ビジョン

市民が安全・安心に，健康で幸福に暮らす
ことのできる都市

仙台市都市ビジョン【平成19年】

○ 少子・高齢化社会

→それらに対応したインフラやシステムの整備は不十分

→医療費・介護費用増による**財政への負担増**

—仙台市の予算規模(福祉，老人医療，介護関連)

約2,500億円(市予算全体の約35%)



ービジョンを具現化するためには・・・

予防型健康福祉を達成するための**自治体主導の施策**や体制の整備
市民への啓蒙活動

インフラの整備(交通機関や医療・介護・健康福祉関連施設など)

大学・地域産業との連携(人材の育成や使用機材・サービス開発など)₃

4.ビジョン実現に向けた政策展開

治療困難
高負担

3次予防
再発予防・
疾病悪化防止

2次予防
早期発見・早期治療
短期的予防

高齢者・生活習慣病予備軍

1次予防
疾病発生予防
長期的予防
一般健常者

低負担

平成18年度医療制度改革：
予防に着目した検診及び健康
指導(特定健診・特定保健指導
等)の義務化(H20年度～)

予防型健康社会への
取り組み
○1次予防の強化
○3次予防のウェイト軽減

多種多様な1次予防策の実践

○市民の個人医療負担の緩和
○地域全体の医療負担の削減

5. 予防型健康サービスのイメージ

○住民の生活情報・健康情報・医療情報を統合的に管理・分析し、個々に最適なテーラーメイドな健康サービスを提供

サービス展開例：

- 在宅者に対し、一人一人に最適化された健康指導プログラムを提供するサービス
- 高齢者施設の入居者に対し、健康状態等に応じた要介護度進行予防プログラムを提供するサービス
- 運転手に対し、自動車内での携帯センサーで体調を自動的にモニタリングし、リアルタイムに体調管理するサービス

等

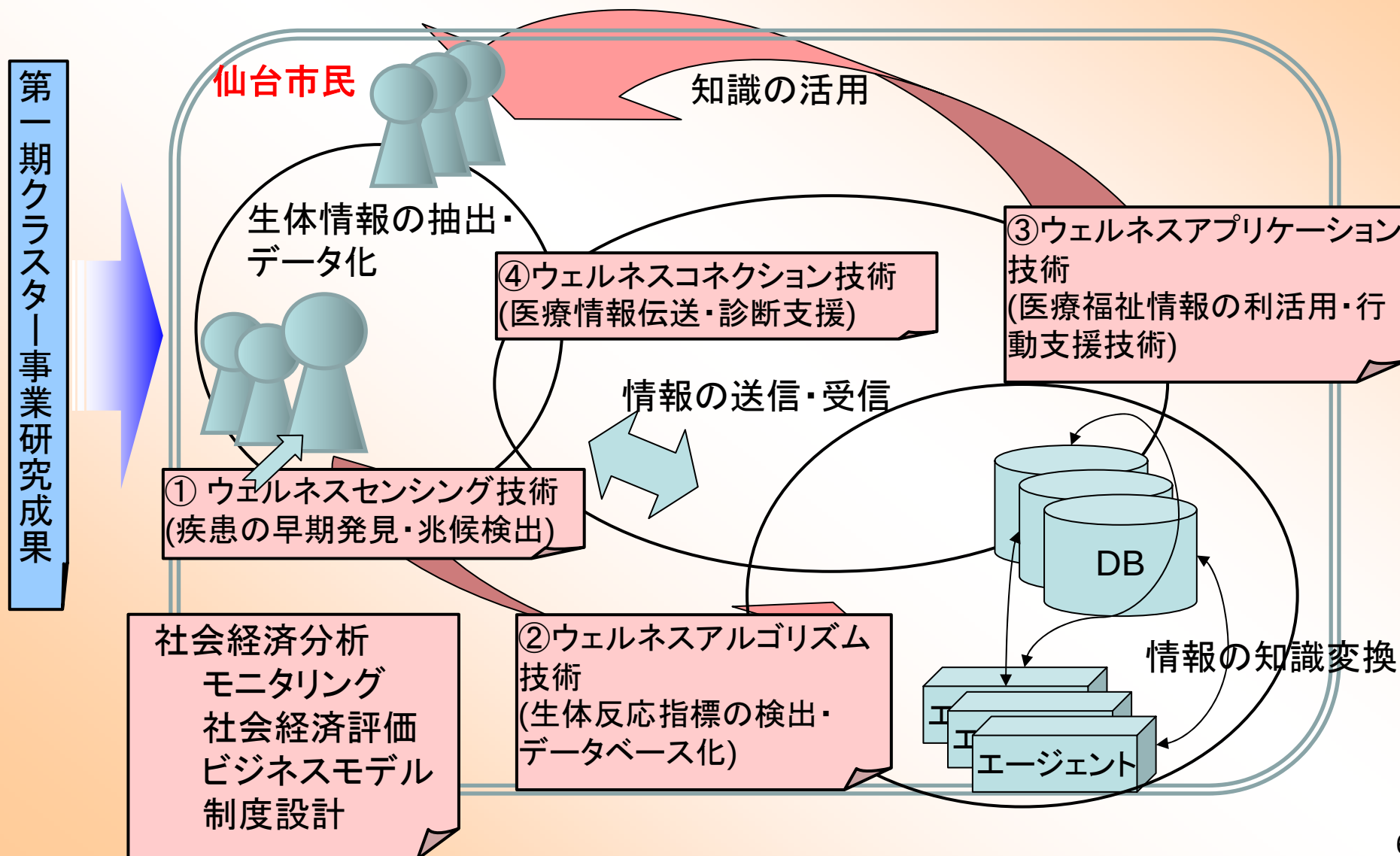
サービス提供主体：

- 社会保険事業団体
- 検診事業者
- 健康機器関連事業
- 生命保険業
- 老人福祉・介護事業
- フィットネスクラブ

等

6. サービスを支える研究の概要

研究テーマ全体図



7. 研究テーマの概要

①ウェルネスセンシング技術

研究の目的:

- ・健康に関する情報を抽出するためのセンシング技術の研究開発

②ウェルネスアルゴリズム技術

研究の目的:

- ・身体につけたセンサーから健康に関する情報を無線によりデータ収集と解析

③ウェルネスセンシング技術

研究の目的:

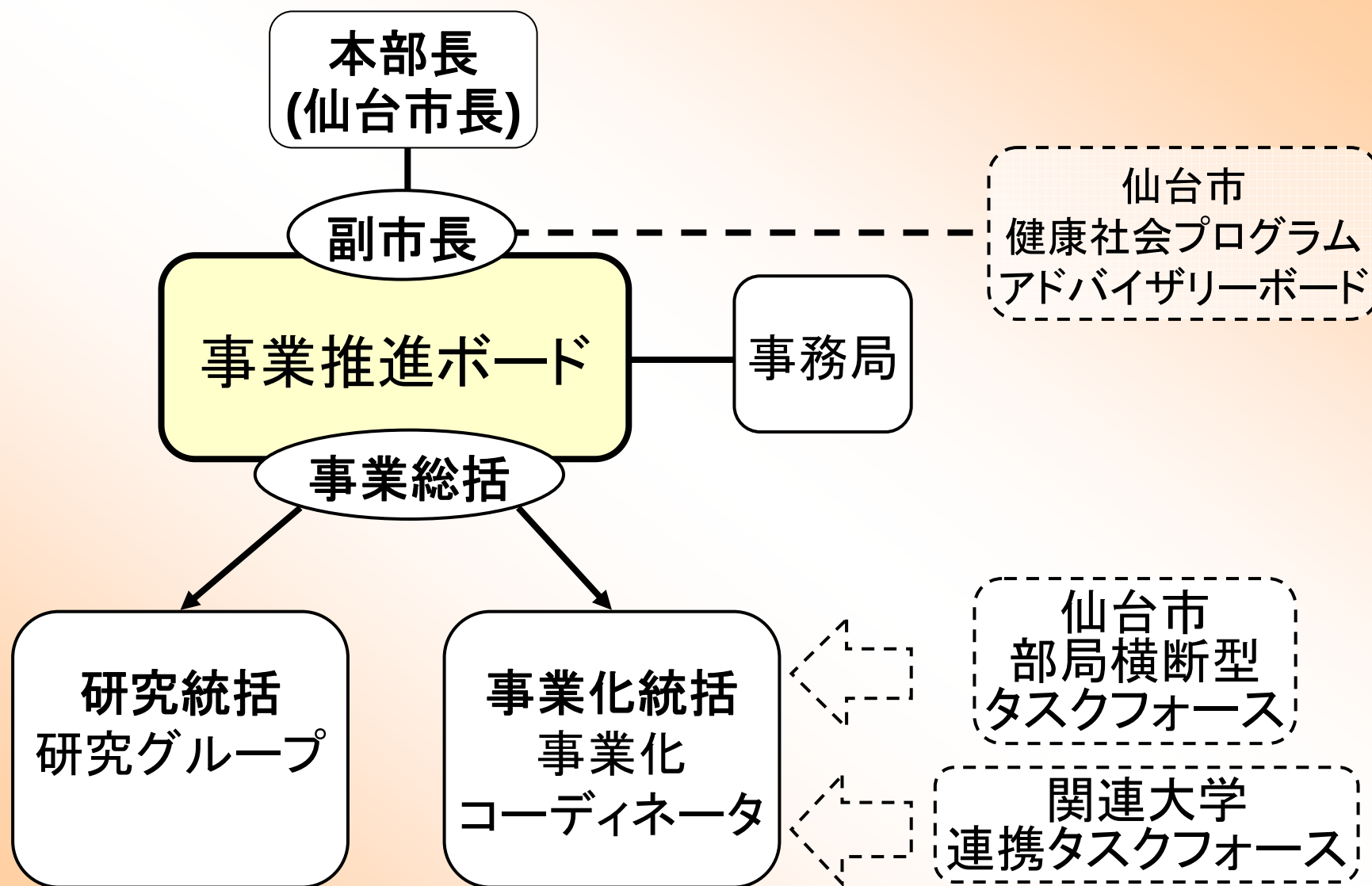
- ・個人の健康状態に応じた、健康に有用/有害な生活パターンの発見
- ・新たな予防サービスの開発

④ウェルネスコネクション技術

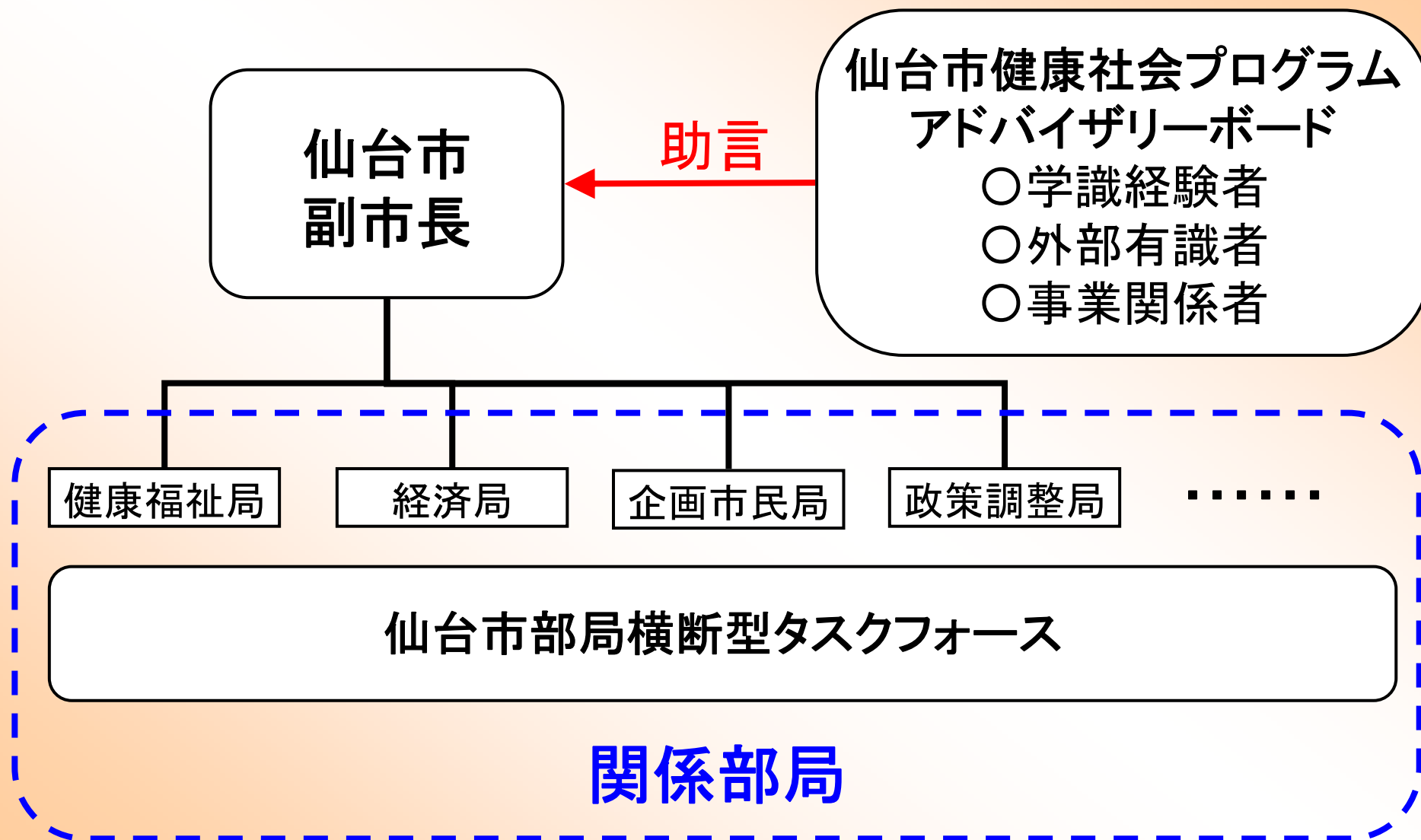
研究の目的:

- ・健康に関する情報を安全かつ高信頼にやり取りし、健康情報を市民へ開放するためのネットワーク管理技術の研究開発

7.事業推進のためのマネジメント体制(1/2)



6.事業推進のためのマネジメント体制(2/2)



8. 知的クラスター創成事業の展望

地域に実現されるもの

